



# 鳥取西高 図書館ジャーナル

鳥取西高等学校図書館

NO.5  
2018. 2

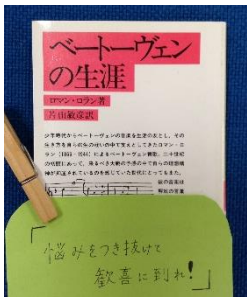
## 知の宝庫に出会う！「竹田文庫」

「竹田文庫」とは、本校卒業生、竹田達夫さんの寄贈による、約2000冊にのぼるコレクションです。竹田さんは1968年から50年間、本校図書館に寄付を続けてくださっています。本のジャンルは哲学や社会学など多岐にわたっており、生徒の皆さんが普段から活用しているものです。「いろいろな本と出会って人間の幅を広げてほしい」という竹田さん思いを大切に、特別展示を企画しました。ぜひ手に取ってみてください

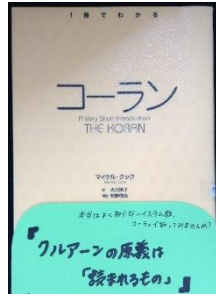
図書委員による「おすすめ竹田文庫」  
展示中！閲覧室入って右側です！



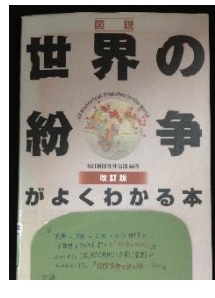
### ■ 図書委員が選んだ「おすすめ竹田文庫」 ■ 一部紹介します



『ベートーヴェンの生涯』  
ロマン・ロラン/著



『1冊でわかる コーラン』  
マイケル・クック/著



『世界の紛争がよくわかる本』  
毎日新聞社外信部/編著



本の背ラベルの上にある

**竹田文庫**

シールが目印です。

確認してみよう！

## 中村秀司先生（地歴公民科） おすすめの一冊！

### 『貧困を救うテクノロジー』 イアン・スマイリー著

（原題 “Mastering the Machine Revisited  
—Poverty, Aid and Technology—”）



「貧困はなぜなくなるのか？」先進国による開発援助の変遷と教訓を基に、技術だとか持続可能性といった概念を明らかにしつつ、未来の社会を展望する、科学と社会連環の書。

著者は、貧困の定義をチェンバースの「貧困状態の5つの次元と状態」から紐解き、これまでの開発援助が、政策や議論の対象を身体的弱さ、孤立、物質的貧困に集中させ、脆弱さや無力さを無視しようとしてきたと指摘する。また、援助の概念や技術移転の適正さなど、個別具体的な事例に触れさせて、目隠してきた不都合さをヴィヴィッドに読者に示す。現実社会はほんとうに不完全なものなのだという認識を、一歩も二歩も深めてくれる本だと思う。

（中村秀司）

↓ 本文より抜粋

われわれの数あるいんちきな美德の中でも、いちばん過大評価されているのは、おそらく「与えること」の美德だろう。与えるという行為は、与える者のエゴを膨らませ、優越感を増し、受け取る者よりも崇高で大きな存在にする。（中略）他方、受け取るという行為は、うまくやろうとすれば、自己認識と思いやりの微妙なバランスがいる。謙遜と分別と、関係性に対する深い理解がいる。受け取る者は、相手にとっても自分自身にとっても、与える者より良くも強くも賢くも見えない。実際には、上手に受け取るには賢くなければならないのに。 —ジョン・スタインバック

